

日 百十五人

露 二千七百人

英 六百八十人

佛 百五十七人

獨 五百七人

合計 四千。二人

六月十五日(金)

劉坤一、張之洞、王之春、李鴻章、愷切ナル語氣

ヲ以テ書テ皇帝ニ上リ遲滞ナク匪徒ヲ鎮

壓シ以テ清國ノ保全ヲ計ラレンコトヲ奏

上シタル趣ナリ(小田切領事)

英兵四百明日テリブル号ニテ北向ストノ

確報ヲ得タリ米國兵二千マニラヨリ送ル

晉采城艦長

盛宣懷昨日海安号ニテ上京ス(私報)

皇太后ヨリ早馬ヲ以テ直隸總督ニ密諭ス

リ天津鎮ノ兵ヲ大沽ニ送り聶士成、兵ヲ

其後援タラシメノ戰備ヲナシ各國兵ノ上陸

ヲ拒ムハバシト總督ノ申込ニ依リ領事會議

ヲ開ク云々(青木中佐)

劉坤一及祐祿聶士成ハ暴徒征討ノ意見ヲ

提出セシモ政府之ニ答ヘス、當地教會堂燒

カレタリ(青木中佐)

地方官吏ハ毫モ團徒ヲ鎮壓スルノ手段ヲ

取ラス(鄭領事)

直隸總督及海關道ヨリ杉山書記生ノ死ヲ

悼ムトノ挨拶アリタリ楊村ノ鐵道及橋梁  
 破壊セラレタリ十四日當地ヲ發シタル糧  
 食運搬車引返セリ天津ト郎房ニ在ル分遣  
 隊ト交通ハ全ク絶ヘタリ郎房以徑約十三  
 哩ノ間ハ修復セラレタル趣ナリ總理衙門  
 ハ遂ニ列國兵手三番人ノ追加ヲ承諾セリ分  
 遣兵汽車ニ前進シ居ルモノ、如シ(鄭領事)  
 露兵ハ直隸總督ノ抗議ニ拘ハラズ北京ニ  
 向ニ出發セントス此決意實行セラレハ  
 清兵及匪徒トノ衝突必然ナリ(鄭領事)  
 雲南ニ在ル外國人ノ家屋ハ悉ク暴徒ノ為  
 ノ焼カル專ラ鐵道敷設ニ對スル惡感情發  
 シタルモノ、如シ(重慶山崎領事)

大臣ヨリ出羽司令官へ訓令三十四番

清國情況益非ナルカ如シ清國ト列國ト

ノ間ニ事ヲ生スルノ虞アリト認ム其官

、彼地ニ於テ列國ノ共同ノ措置ヲ取ル上

ニ於テハ努メテ融和ヲ圖リ互ニ衝突ヲ

惹起セサル様篤ト注意スヘシ

大臣ヨリ島村大佐へ訓令三十五番

前ト同文末ニ此旨先任指揮官ニ傳ヘヨ

ヲ加フ

本日マテニ得タル情報ヲ摘録シテ總務長

官ヨリ出羽司令官ニ報ス

大臣ヨリ吳鎮長官へ訓令

我陸軍ニ於テハ兵負一箇大隊ヲ清國ニ

派遣スル為宇品ヲ乗船出發セシムル苦  
之カ為陸軍官司ヨリ其府へ依頼シ來リ  
タルニトアラハ之ニ應シ可成便宜ヲ與  
フル様取計ヲヘシ

豊橋大沽ニ著ス

陸軍臨時派遣隊編制九ノ如シ

兵一千三百人

馬匹三百

之ヲ佐倉丸威海丸ニ令乗宇品ヨリ出發ノ

筈(時日未定)

六月十六日(土)

當地ト天津間ノ電線破却セラレタリ(芝罘  
田結領事)

蕪湖在留ノ日本人六月九日暴徒ニ襲ハレ  
 タリ其地方官吏ノ保護ヲ受ケ居ル由ナリ  
 更ニ軍艦一隻派遣セラレタシ(小田切領事)  
 十四日本官ヨリ報告セシヲリエル号東込  
 ノ兵士ハ露本國ニ歸ルモノニシテ漢口ニ  
 上陸スルモノニアラサルコトヲ確メタリ  
(小田切領事)  
 露國商人ギニスホークビスケツト九一〇  
 斤ヲ製造中馬山浦ヨリ英炭ヲ潮州府号外  
 二隻ニ満載シ大沽ニ送ル  
 露商船テイデフリカカチノ三隻ヲデツ  
 州ヨリ入港何レモ六千噸以上ノ大船ニテ  
 船倉密封多クハ兵器ノ類ナラシ(長崎縣知

事)

清國政府白河口ニ水雷ヲ敷設シ天津北京  
大沽等ノ間ノ交通ヲ絶タントス是レ政府  
ハ明ニ匪徒ヲ助クルモノト認メラル露國  
司長官ヨリ大沽砲台ハ撤去ヲ申込ハ應セ  
サルトキハ十七日午前二時ヲ期シ聯合軍  
砲台ヲ砲撃セントストノ事列國軍艦會議  
ニテ決定セリ(笠置艦長)  
出羽司令官吉野ニテ徳山ヲ出テ大沽ニ向  
フ

大臣ヨリ島村大佐ハ

出羽司令官吉野ニテ十六日午前四時徳  
山發十九日朝其地著ノ管充ノ電報ヲ傳

一且心得ハシ

陸軍臨時派遣隊運送船大沽沖ニ到着

ノ上ハ其上陸ニ関シ其官ニ於テ可成

便宜ヲ與ヘヨ其派遣隊ハ人負千三百

馬匹三百船ハ佐倉丸威海丸太田川丸

加茂川丸ニテ宇品ヨリ出發ノ筈時日

未定

午前九時服部中佐ノ率ニル陸戦隊塘沽ニ

上陸ス停車場ヲ守ル他國兵負ノ到ル陽炎

大沽ニ著ス

大臣ヨリ佐鎮長官ハ

叢雲ハ警備ノ為特ニ韓清兩國沿岸ヲ巡

航セシメラル準備整次第大沽ニ急航シ



所在首席指揮官ノ指揮下ニ交通ノ任務  
等ニ服セシムヘシ

健康保持ノ点ニ関シ大臣ヨリ訓令アリタ  
リ

大臣ヨリ佐鎮長官ハ

天津ヨリノ電信不通トナレリ大沽ト日

本ト交通電信アル港トノ通信ヲ連續ス

ル方法ヲ講スヘキ旨叢雲ヲシテ在大沽

ノ首席指揮官ニ傳ヘシメヨ

大臣ヨリ電訓

閣議決定充ノ如シ

一出兵ノ目的ハ我公使館領事館及帝國臣

民ノ生命財産ヲ保護スルノ範圍内ニテ

動作セシムルニ在リ

二列國ト共同ノ態度ヲ取り慎重事ニ當シ

三緊急ノ場合ノ外在清我公使ト協議セヨ

若シ意見合ハサルコトアルモ兵機ニ係

ルトキノ外ハ公使ノ議ニ從ヘ

四公使ト協議スルヲ得サル場合ハ北京ノ

外ハ我領事又ハ外務省ヨリ派遣ノ官吏

ト協議セヨ其便宜ナキトキハ事後之ニ

報告セヨ

五正當防衛ノ外ハ清國内亂ニ干渉スル勿

六必要ノ場合ニハ外國人清國人ヲモ保護

セヨ

七海陸兩軍兵互ニカヲ合セ各任務ヲ全フ

セヨ

八他國ノ派遣兵及清國軍隊ニ對シ相當ノ

敬禮ヲ守燃融和ヲ圖リ交誼ヲ破ラサル

コトヲ期セヨ

龍田ヲ常備艦隊ニ編入セシメラル

英兵四百人香港ヲ出ツ

日本ノ陸戦隊ニ合セシメ為獨水兵百三十人

露水兵百八十五人上陸ス

六月十七日(日)

支那問題韓國ニ影響スルナラン日本陸兵

一大隊ヲ出シ露國亦八千ノ兵ヲ出セシト

聞キ韓廷震駭ス(私報)

太后蘆台及太沽砲台ニ密旨ヲ下シ戰鬪準  
 備ヲ命ス以テ各國兵ヲ拒止セントス北京  
 ニテハ十四日夜會堂ヲ燒キ虐殺ヲ恣ニス  
 外國人無事天津塘沽間電信不通(笠置艦長  
 上海道台外教會堂ヲ護ル、西太后熱河ニ避  
 ケリトノ報アリ(私報)  
 十五日以來天津居留地五ヶ所匪徒ノ放火  
 アリ連合軍之ヲ討テ攘フ  
 午前二時ヨリ連合海軍大沽砲台ヲ砲撃ス  
 戦死者九ノ如シ  
 服部中佐、一水北田久吉、三水末廣兵  
 四郎、前川嘉作  
 負傷者九ノ如シ

一曹手島種吉、一水松本熊吉、二水清

家筆吉、高林十郎、柴田清助

陸軍派遣兵ノ運送船監督官ヲ別府中尉ニ

命シ之ニ訓令ヲ與フ

大臣ヨリ訓令

高雄常備艦隊ニ編入セラレ清國ニ派遣

セシメラル同艦ハ上海ニ急航シ赤城ト

協同シテ長江筋警備ノ任ニ服セリムハシ

刻下大浩ニ在ル我軍艦尤ノ如シ

笠置、須磨、愛宕、陽炎

陸軍派遣隊ノ編制尤ノ如シ

歩兵一大隊、騎兵一小隊、工兵一小隊

輜重兵隊、糧食、綫列、天幕輸送負

廣島屯在ノ諸部隊ヲ以テ之ニ充ツ司令官  
 ハ福島少將トス  
 第五第十一師團ノ兵ニハ村田連發騎銃ヲ  
 交付セリ  
 宇品乗船ハ十八日午後トス  
 豫備役兵ヲ召集セス  
 加茂川丸太田川丸ハ大沽ニ於テ解舟ニ代  
 用ノ見込  
 大沽ニ補給支廠ノ出張所ヲ設クル筈  
 露艦トハトロバウロスクナハリニキリヤ  
 シ清艦海容大沽ニ入ル  
 清艦海容大沽ニ入ル  
 獨艦「カイザリン」アウカス夕清艦海天大沽

0071

ヲ出ツ

英艦「バルミオ子」リン子ツト吳淞ヨリ南京

ニ向フ

刻下大沽ニ在ル外國軍艦尤ノ如シ

英「アルゼリン」エンデミオン「セ」ンチユリ

オン「オー」ロラ「オル」ランドウ「ブ」ロー「ル」

「アラ」ク「リ」チ「ホ」ワイ「チ」ング

露「シ」グ「イ」ベ「リ」キ「ド」ミ「トリ」ド「ス」コ「イ」

「コレ」ツ「ロ」シ「ヤ」ブ「チ」チ「ハリ」シ「ア」

「ド」ミ「ラル」コ「ロ」ニ「ロ」フ「ベ」ト「ロ」ハ「ウ」ロス

「ク」キ「リ」ヤ「ク」ガ「イ」ダ「マ」ツ「ク」水「雷」艇「ニ」

隻

佛「シ」ル「プ」リ「デ」カ「ル」ト「シ」ヤ「ン」バ「ール」

「リオシ」ダントルカスト

獨「イル」チス「ゲ」フヒオシ「ハ」ンサ「ハ」ルタ

米「ニ」ユ「ア」リク

伊「ス」ルバ「カ」ラ「ア」リヤ

澳「ゼ」ンタ

清海容水雷艇四隻

六月十八日(月)

我艦隊陸地交通甚ク不便常ニ時機ヲ失フ

驅逐艇二隻一等水雷艇三隻派遣必要ト認

ム曳船及「ライ」タ「シ」不充分小蒸汽船数隻派

遣必要ト認ム昨十七日午前〇時四十五分

連合軍艦ト大沽砲台ト開戦本艦五時半ノ

出艦ニテ尚砲聲盛ナリ須磨汽罐ニ故障アリ

（註）

0073



需品糧食欠乏ニ垂ントス、笠置完全、優宕  
 糧食ヲ未タ受取ラス兵負ハ本艦ヨリ補充  
 セリ、笠置須磨石炭欠乏、聯合陸戦隊及露ノ  
 陸兵四千天津ニ六百ハ塘沽ニ在リ各國益  
 増兵ノ模様アリ本艦ハ更ニ大沽ニ於テ殘  
 荷物ヲ揚ケ情況ニ依リテハ之ヲ笠置ニ移  
 シ至急歸朝セントス(芝罘豊橋艦長)  
 大沽砲塞ト列國軍艦(米國ヲ除キ)トノ間ニ  
 戦闘開始セリ(芝罘田結領事)  
 砲撃ハ昨十七日午前八時停止セリ(同右)  
 風説ニ依レハ匪徒芝罘ニモ來ルト云フ防  
 衛ノ策ヲ講シ今日コテハ安全ナレトモ一  
 軍艦ノ派遣ヲ望ム又天津芝罘間ノ電線切

断セシユ工通報艦ノ派遣ヲ望ム(同在)

北京事件當地ニ何等ノ影響無シ、康有為党

派ニ付テハ警戒ヲ加フト去フ(廈門筑紫艦

長)

小銃二十五増加ヲ望ム長江筋平穩(赤城艦

長)

十七日朝二時ヨリ各國陸戰隊千五六百大

沽砲台ヲ攻メ占領シタルモノ、如シ北京

天津消息不明(田結領事)

韓國政府平壤ノ兵ヲ増シ清國國境ニ兵ヲ

派セントス義和團匪ノ侵入ヲ防ク為メナ

リト去フ(韓林公使)

劉坤一ハ揚子江ニ入ル外國艦隊ヲ防止ス

へキ訓令ヲ受ケタリトノ報告ヲ不認セリ  
 又同氏ハ上海知縣ニ命シ義和團徒ヲ逮捕  
 セシムト云々  
 昨日當地ニ在ル領事會議ヲ開キ防禦方法  
 ヲ計畫スル急變アルトキハ在泊軍艦ニ出  
 兵ヲ要求スルコトニ決セリ(小田切領事)  
 各國ニ軍艦ヲ上海方面ニ派スルノ餘裕無  
 キニヨリ我國ヨリ吳淞砲台領準備トシ  
 テ二三隻ノ軍艦ノ派遣ヲ望ム(赤城艦長)  
 蘆台天津間電線切斷ノ為メ當地ニテハ直  
 接清國ヨリノ報道ニ接スルヲ得ス(林公使)  
 大沽砲台ト戦闘中外國軍艦二隻沈ノリト  
 ノ風説アリ又信スヘキ報道ニ依レハ李鴻

章北エテ命セラレタリト云フ(小田切領事)  
 北清ト往復通信ノ為大活仁川間ニ報知艦  
 ノ配置ヲ必要トスルニ至ルハニト信ス牛  
 莊京城間ノ電線ハ信用スルニ足ラス(林公  
 使)  
 目下清國ノ騷動國中到ル處ニ波及セリ高  
 雄赤城ノ外更ニ強カナル軍艦一隻ノ淤遣  
 ヲ望ム出來得ヘクシハ五十人令ノ銃器彈  
 藥ヲ發送セラレタシ(赤城艦長)  
 大活砲台ハ外國兵ニ在領セラレタル趣ナ  
 リ(小田切領事)  
 淺間八重山千代田千歳明石宮古八島摩耶  
 富士ヲ常備艦隊ニ編入セララル

訓令

淺間、八重山、千代田、千歳、明石、宮古、摩耶ハ

清韓沿岸ヲ巡航セシメラル

水雷艇阜清韓沿岸ヲ巡航セシメラル準

備成次第大沽ニ急航スヘシ

龍田ハ警備ノ為清韓ハ派遣セシメラル

大沽ニ急航スヘシ

大臣ヨリ常備艦隊司令長官ヘ

一 清國大沽ニ於テ十七日午前列國ノ聯

合軍ト清兵ト砲火ヲ交ヘタリト聞ク

二 貴官ハ常盤高砂、秋津洲ヲ率ヒ大沽ニ

急航シ所在艦船ヲ統ヘ列國ト協同動

作スヘシ(以下畧之)

横鎮ヲシテ 佐渡國丸ヲ備入レ石炭運搬用  
ニ充テシム

總務長官ヨリ通知

常備艦隊ニ尚一人司令官ヲ置カル、若

其旗艦ハ八島ニ指定セラレタシ

大臣ヨリ常備艦隊司令長官ヘ

有馬司令官ヲ淺間ニ轉乘セシメヨ

佐世保軍港ヲ海運基地ト定メラル

汽船臺東丸及基隆丸ヲ運送船トシ佐鎮

ノ所管ト定ム

清國軍艦四隻芝罘ニ在リ

陸軍大臣ヨリ福島司令官ヘ

第二次派遣隊編制ノ御沙汰アリ其完結次

第清國へ追送シ貴官ノ指揮ニ屬ス

陸軍大臣ヨリ第十一師團(丸亀)長へ

清國義和團ノ騷動ニ依リ帝國公使館領

事館及臣民保護ノ為ノ其師團歩兵第十

二聯隊及輜重兵第十一大隊ノ現在負ニ

テ戰時編制ノ歩兵一大隊ヲ編制シ福島

少將ノ指揮ニ屬シ派遣セラレ

陸軍大臣ヨリ第五師團長へ

兵力ヲ更ニ派遣スルコトニ定メラル

陸軍派遣隊第一次編制完備乗船出發ヲ期

刻下上海ニ在ルモノ尤ノ如シ

カス千シヲ一ターウイツキ

六月十九日(火)

肥後丸ヲ徴發シ今夕日本及外國ノ負傷人  
ヲ佐世保ニ送ル日本五露七十其他不分明  
(笠置艦長)

明日ゴサツク兵多数來ル答明後日英艦  
リフル千人ヲ乘セ來ル答清國軍艦芝罘ヲ  
出テルトノ事ヲ聞ク露國兵負運送船ニ獲  
衛ヲ附ケ居レリ(笠置艦長)

牛莊ハ平穩ナリ(郵便會社)  
漢口ヲ距ル百哩ナル天門縣起市ニ在ル教  
會堂毀タル張之洞之ニ兵ヲ派セリ英艦ハ  
一ニオシ當地ニ來ル答エスタハ現在セリ

(漢口瀨川領事)



十七日、戦大沽ニ於テ日本軍ハ北方内面  
 ニ在ル最優勢ノ砲台ヲ占領セリ露兵三千  
 人英兵一千人獨兵千三百人ハ昨日ヲ以テ  
 コサツク兵若干人ハ本日ヲ以テ大沽ニ到  
 著ノ誓ナリ(田結領事)  
 大臣ヨリ赤城和泉蘇紫艦長ハ慎重ノ態度  
 ヲ取ルヘキ電訓アリ  
 大臣ヨリ佐鎮長官ハ  
 運送船ハ戦時編制實施要領書第八款第  
 二乃至第七ニ據リ準備スヘシ  
 陸軍派遣兵運送船主佐丸ニ監督官トシテ  
 淺川中尉ヲ指定アリ  
 常盤高砂秩津洲佐世保ヲ出テ大沽ニ向フ

軍竹敷 大沽ニ向フ

鎮中鎮邊大沽ニ向キ 仇世保ヲ出ツ

叢雲仇世保ヲ出テ 大沽ニ向フ

清艦海峽ヲ出テ 行ク所ヲ知ラス

吉野及豊橋大沽ニ入ル

威海丸字品ヲ發ス

露少將陸兵一聯隊引率大沽ニ至ル

目下漢口ニ英艦リ 子ツトアリ 南京ニハ

一マヨ子アリ 泊ナバンチマヨアシガウシ

テツト南方ヨリ 上海ニ向フ

六月二十日水

大沽戰鬪ノ報告當地ニ達セシモ 概シテ平

和ナリ 清國兵居留地ヲ護ル (福州仇野大尉)

露國政府ハ列國ト協議ノ上 陸兵四千入ヲ

天津へ派遣スルニ決シタリト云フ英大使  
 ノ言ニ依レハ露國ハ目下列國間ノ一致ヲ  
 脱スルカ如キ意思アルヲ認メスト云フ(在  
 露小村公使)  
 韓國大臣ヨリ聞ク所ニ依レハ露人カ鎮海  
 ニ木柱ヲ建設シタルハ測量ノ目的ニ止マ  
 ルト露公使ハ云ハリト併シ其實際ニ依リ  
 テ察スルトキハ此言ハ疑ハシ(林公使)  
 塘沽ニ於ケル外國軍隊ハ天津ニ向ヘリ天  
 津居留地ハ去ル十八日夕燒キ拂ハレタリ  
 トノ風説アリ(芝罘田結領事)  
 英國海軍將軍ハ北京ニ著ク公使館ハ總テ  
 安全ナリトノ報アリ然レモ未タ確報ナシ

(上海小田切領事)

當地ニ於テハ目下危害ノ虞ナケレトモ可

成速ニ砲艦一隻ノ派遣ヲ望ム(牛莊田邊領

事)

浦港ヨリ支那ノ歩兵<sup>騎</sup>ノ支隊ヲ派遣セリ(浦

港町田大尉)

肥後丸ニテ枕せ保ニ送り來ル内外軍人ノ

負傷者、ミハ海軍病院ニテ之ヲ受ケ其他

避難人等ハ地方廳ニ交付スルコト、セ

リ

常備艦隊ノ中一隻ヲ可成芝罘ニ在ラシメ

同地領事館等ノ保護及本國トノ通信連絡

ヲ掌ラシムヘキ訓令アリ

龍田ヲシテ我陸軍兵ノ乗レル汽船ヲ掩護  
 スハキ航路ヲ取ラシムルノ訓令アリ  
 入京ノ途ニ於テ久シク郎坊附近ニ停止シ  
 居リシ列國兵ハ本日北京ニ入りシモノ、  
 如シ  
 倭世保ニ著スヘキ負傷外人救護ノ為メ救  
 護團ノ派出ヲ赤十字社ヘ照會アリ  
 高砂芝罘ニ寄港シ大沽ニ向フ  
 秋津洲芝罘ニ入ル  
 六月二十一日(木)  
 長江一帶無事(上海稲村大尉)  
 露公使ヨリ聞ク所ニ依レハ大沽砲台ヲ  
 回軍ニテ占領セシト云フ之ニ加ハリシ  
 列

艦ハ露三隻英佛獨各一隻ニシテ露人ノ死  
士官一卒十六同負傷士官四卒六十七アリ  
ト云フ(大塚天佐)

露國ノ買受ケシ馬山浦土地代金ノ事ニ  
付テ韓廷ト露公使ト爭議中(私報)

十七日マテハ北京ニ在ル各國公使館安  
全セリモア中將及各國兵北京ニ入ル(私

報)

端親王宮殿ヲ燒キ皇帝ヲ殺セリ太后亦

自殺セリ各國領事ハ之ヲ秘シテ當地ノ

新聞ニ掲ケシニス(上海ヨリ私報)

日本人二十人旅順ヨリ當地ニ歸來セリ露  
人ハ日本人ニ對シ痛ク嫌疑ヲ抱クモノハ

如シ(芝罘田結領事)  
 目下七千人ノ軍隊大沽ニ在リ英兵九百人  
 ハ香港ヨリ同二百人(清國人ヨリ成ル)ハ威  
 海衛ヨリ二日中ニ大沽ニ到著ノ答露モ亦  
 其兵ヲ増スナラン(田結領事)  
 上海附近危険ノ虞アリ四艦ヲ當地ヘ派遣  
 セラレタキ旨在大沽ノ列國海軍指揮官ヘ  
 請求スルコトヲ領事會議ニテ決セリ本官  
 ハ高雄ノ外尚一隻ノ軍艦派遣アラシムコト  
 ヲ望ム(上海小田切領事)  
 四川ハ目下安全ナルモ何時事變起ルマ測  
 ラレス(重慶山崎領事代理)  
 浙江ハ無事ナレトモ警戒ス

張劉二氏召サルレトモ上京セス(杭州齋藤大尉)

一昨日(浦塩町田大尉)歩兵二百騎兵百發送

セリ(浦塩町田大尉)

福州將軍ハ六月二十日ヲ以テ長門砲台防

備ノ準備ヲ命セリト云フ(福州豊島領事)

大北電信會社ノ申込ニ基キ大活芝罘間ノ

通信ヲ確實ニスヘキコトヲ各國海軍指揮

官ニ協議スヘク常備艦隊司令長官ハ訓示

アリ

總務長官ヨリ常備艦隊司令長官ハ

司令官旗艦ヲ八島ニ指定ノコトヲ取消

ス遠藤司令官ハ富士ニ乗艦セシメテ



露國負傷者及死者ハ肥後丸ヨリ箱佐ニ引

取ル旨露國公使ノ申出アリタリ

山口丸ヲ運送船下ニ佐鎮ノ所管ト定ム

常磐常備艦隊司令長官旗艦高砂大活ニ著

ス

六月二十日大活ニ於テ列國海軍指揮官

決議危ノ件ヲ沿海沿江各地ノ總督及官憲

ニ告知ス

連合各國ハ北京ニ圍マシタル同胞ヲ救

ハシ為メ入京中ノ各國兵ニ反抗スル人

民及匪徒ニ對シテノミ兵力ヲ用ヒント

スルモナリ云々

侍從武官井上大佐傷者慰問ノ勅ヲ奉ニ佐

英艦三隻 長江筋ニ在リ	上海ニ米艦一 英艦一在リ	目下清國ニ上陸中ノ列國兵尤、如シ(確報)	ヲ得タルモノ、モヲ揚ク	北京ニ在ルモノ、三百九十四人内	日二十五人 露七十五人	英七十五人 佛七十五人	獨五十二人 米五十二人	存四十人	北京以外ニ在ルモノ、五千五百人餘内	日五百四十人 露三千〇六十八人	英八百八十人 佛三百四十七人
----------------	-----------------	----------------------	-------------	-----------------	----------------	----------------	----------------	------	-------------------	--------------------	-------------------

獨五百五十五人 米百四十三人  
墮五十人 伊四十人

六月二十二日(金)

天津ノ各國居留地ハ二十日ヨリ砲撃ヲ受  
ク(英公使館)

セーモリア中將大活ニ反ル百五十人ノ外  
國人天津ニテ殺サレタリト云フ(芝罘田結  
領事)

當地砲台警戒ノ命令ヲ發セシモ敵意無キ  
モノ、如シ一般平和ヲ繼續セリ(福州佐野  
大尉)

肥後丸ノ外人無シ(佐世保病院)  
日本ニ於テ人心激昂スルト聞キ當國ノ諸

新聞紙ハ我國ノ態度ヲ熱心ニ注目スルモ  
 、如シ(獨井上公使)  
 李鴻章二十七日エシパルスラインヂヤ号  
 ニテ香港ヲ出發鎮口ニテ廣利号ニ交換ハ  
 北上ノ筈(香港上野領事)  
 ハウロフ氏ノ言ニ依レハ露國兵旅順ヨリ  
 天津ニ至リシモノ四千ニ達シ内二千ハ  
 ハ大沽交戦ノ後ニ出發セシモノナリト云  
 フ(韓林公使)  
 張之洞ハ南ニ遷都スルコトハ時期早シト  
 云、リ劉ハ人心ノ動搖ヲ恐レ英艦ノ在泊  
 ヲ嫌フ(上瑞稻村大尉)  
 天津圍マレ十七日以來激烈ナル砲撃ヲ受

ク大活ニ在ル連合軍ノ一部之ニ進ミシモ  
 連絡困難ナリト思フ目下大活ヲ守備スル  
 コトハ必要ナリ(出羽司令官)  
 漢口不穩ノ氣味アリトモ未タ顯レズ天門  
 ニテ舊教會堂燒カル(漢口三大尉)  
 二十日天津ニ於テ清國兵ト各國兵トノ  
 間ニ於テ激烈ナル砲戦アリ(私報)  
 露人ハ芝罘營口等ヨリ旅順ニ逃ル旅順  
 ニハ戒嚴令ヲ布ケリ(私報)  
 英兵香港新嘉坡ヨリ來ル筈(出羽司令官)  
 清艦四芝罘登州附近ニ居ル由早ク常盤淺  
 間高砂千歳等ノ有力ナル軍艦ニテ捕獲セ  
 シメラレシコトヲ望ム(出羽司令官)

居留民恐怖甚シ高雄ノ他軍艦ノ増遣ヲ望

△赤城艦長

大活ノ戦ニ於テ死骸及傷者ヲ乗セタル

肥後丸 佐世保ニ入ル

豊橋丸 佐世保ニ入ル

台北丸ヲ運送船トシ佐世保鎮守府ノ所管

トス

大臣ヨリ在芝罘秋津洲艦長ハ

十五日以來海陸ノ情况十七日ノ戦况等

ヲ報告セヨ

宮古釜山ヨリ馬山浦ニ向フ

訓令

驅逐艦陽炎叢雲ハ警備ノ為メ清韓沿岸

フ巡航セシノラル其ノ任務ハ驅逐艇々  
 リントキニ同シ、朧寛ハ修理出來次第  
 世保ニ回航セシノ連曙雷電ハ當今積須  
 賀ニ留ラシムハシ  
 芝罘ニ在ル軍艦ヲシテ陸軍第二次派遣  
 隊ヲ乗セル大連丸朝顔丸土佐丸ヲ山東  
 角ニ出迎ヘ且時宜ニ依リ護衛セシム  
 十七日ノ戦愛宕ハ吃水深キユヘ列國砲艦  
 ノ彈藥等ヲ預リ戦ニ加ハラス我陸戦隊ハ  
 白河ノ北岸ニ砲台ヲ第一ニ占領ニ同砲  
 台ノ砲ヲ利用シテ北岸ニアル中央砲台  
 砲撃セリ中央砲台ヨリ續テ英露獨兵之ヲ  
 占領セリ十八日我兵ハ停車場守備ニ移リ

砲台ハ英兵之ヲ守ル(豊橋艦長ノ報告)  
 十七日清艦海容ヲ抑留シ機械ト砲トヲ不  
 用ナラシメノ露士官之ヲ監督ス清水雷艇四  
 隻ハ英艦之ヲ捕獲セリ  
 塘沽ニ在ル清艦一隻ハ露人之ヲ捕獲ス  
 現在先任官ハ露國長官ナリ  
 吉野ヨリ水兵四十人ヲ上陸セシム  
 吉野副長福井中佐ヲシテ陸戰隊指揮官ト  
 ラシム(以上出羽司令官)  
 阜芝罘ニ入ル  
 阜芝罘ヲ出ツ  
 第二次陸軍派遣隊一大隊大連丸ニテ門司  
 ヲ出發ス



同朝顏丸王佐丸宇品ヲ發ス  
 獨艦ヲゲフオシ佛艦ハスカル米艦ヲアシユ  
 曰ル芝罘ヲ出ツ英ノ驅逐艦ホワイチング  
 大沽ヨリ長崎ニ入ル  
 十七日ノ戰大沽ニ在ル軍艦ハ英一佛ヲオ  
 シ日覆岩露コレソ獨イルチス米モノカ  
 シナリナリオシ火災ヲ起シコレソハ敵  
 彈丸命中士官ニ下士以下四即死イルチス  
 ノ士官一士以下六即死艦長負傷セリコ  
 シソ水際ヲ打タレ防漏蓆ヲ當ツモノカ  
 シ敵彈一ヲ蒙ル  
 陸戦隊ハ露獨佛合計百八十六日ヲ以テ  
 塘沽ニ上陸シ我兵ト合シ砲台ノ背面ヲ襲

フ進軍ノ曠ハ露獨英日ナリシカ途中空隙  
ノ生カシク為ノ我兵通り抜ケ敵壘ニ突貫ス  
白石大尉第一ニ敵壘ニ上ル西方砲台ハ我  
兵之ヲ占領シ其他外國兵之ヲ占領ス午前  
七時砲撃止ム

十七日清艦海容大沽ヲ去ラントス獨司令  
官其不可ナルヲ諭シ之ヲ止ム(肥後丸齋信)

六月二十三日(土)

米國運送船「カレール」号長崎ニ入ル同船ハ  
陸兵百十人ヲマニラヨリ大沽ニ送リタル

モノナリ(長崎縣知事)

佛國士官一人天津ヨリ大沽ニ歸來セリ天  
津ノ外國人居留地ハ燒拂ハレタル趣ナリ

米兵百三十人露兵百人二十日夜ヲ以テ天津ニ向フ(芝罘田結領事)

二十一日ハラヴ井エツ伯死去セリ(露小村公使)

聯合軍凡三千人天津ニ向ヒ進軍セリ京津事情今以テ不明(秋津洲艦長)

義和團事件ニ関シ多少流言アルモ何ノ異状モナシ(厦門和泉艦長)

清艦六隻連日入泊ス外國居留民ニ對シ危險ヲ醸スノ恐レアリ本官二十二日稟議ノ措置ヲ迅速ニ實行アラシコトヲ望ム(小田切領事)

清艦六隻續々長江ヲ溯ル(上海稻村大尉)

米國領事ノ言ニ依レハ劉ハ北京ヨリノ内  
 命ニ依リ江陰砲台及清艦ヲシテ外國軍隊  
 對抗スルノ準備ヲナサシメタリト云フ  
 本官等再三電稟セシ軍艦増遣ヲ望ム(上海  
 小田切領事赤城艦長)  
 當地人心恟々商業殆ント中止シ墨銀非常  
 騰貴セリ西部砲台ニ大砲四門ヲ増シ軍  
 隊一千人アリ夏ニ寧海ヨリ若干ノ兵士來  
 ルト云フ昨日三千ノ軍隊大沽ヨリ天津ニ  
 向フ(芝罘田結領事)  
 當地ニ於ケル荷物ノ積卸シハ支障ナキモ  
 清人ハ大沽ノ戦況ヲ聞キ惶惑セリ一二隻  
 軍艦ヲ派遣セラレタク蹶望シ居レリ返

電待ツ(牛莊田邊領事)

雲南暴動ハ佛人カ彈丸ヲ輸入セシニ起因

スト云フ暴動ノ主謀者ハ己ニ處刑セラレ

タリ佛國領事ト地方官トノ間談判中(重慶

山崎領事)

當地邊ハ何等ノ異狀ナシ(杭州若松領事)

山口丸横須賀ヲ出ツ

名東丸佐世保ニ著ス

秋津洲芝罘ヲ出テ大活ニ向フ

隼芝罘ニ入ル

土佐丸宇品ヨリ門司ヲ經テ大活ニ向フ

外國軍人ノ死傷者ハ大活ニ假病院ヲ開キ

之ニ收容シタリト云フ(長崎縣知事)

英艦ヲイランゴ  
 佛艦ヲスカル  
 英艦ヲイランゴ  
 清艦海天海濟海壽飛鷹上海ニ入ル  
 英艦ヲイランゴ  
 時擊退セラレシカ  
 試ハル筈ナリ英士官一人戰死シ同士官一人永兵二人負傷セリ此他列國兵中或ハ捕ハレ或ハ殺サレタルモノアリ露兵ノ死傷特ニ多シ兵學校守備兵ハ尚防禦ニ居レリ北戴河及山海関ハゴサツク兵之ヲ占領セリト傳フ(芝罘田結領事報告)  
 英政府ハ印度ヨリ七千乃至八千ノ兵士ヲ派遣セントス其第一部隊ハ六月二十四日